

2010年10月26日 公益信託ENEOS 水素基金 第5回助成金贈呈式を開催

本基金は、水素エネルギー供給に関連する独創的な基礎研究を継続的に助成することにより、水素を利用したエネルギーシステムを広く社会に普及させ、将来に亘って持続的に発展し続ける社会を創造することを目指している。また、その規模は、年間総額 5 千万円（1 件あたり最大 1 千万円）の研究助成金を、約 30 年間にわたり安定的に交付することが可能なものとなっている。第 5 回目となる今年度は、51 件の応募の中から厳正な審査により 6 件のテーマが選考された。

贈呈式では竹内副社長より「今回のテーマも研究促進の起爆剤となる可能性を秘めたものばかり。本基金の助成を最大限有効に活用して独創性・新規性に溢れる研究成果を生み出し、低炭素社会の早期実現に貢献して欲しい」との激励の後、太田健一郎運営委員長（横浜国立大学大学院教授）より、各助成対象者へ目録が贈呈された。

また、贈呈式に先立ち開催された前年度助成対象者 6 名による成果報告会では、活発な質疑応答が展開された。

（研究開発企画部 R&D 企画グループ 立石 大作）

2010年度研究テーマおよび助成対象者

研究部門	研究テーマおよび助成対象者
水素製造技術	「金属置換により還元力制御した水分解のための光触媒開発」 加藤 英樹（東北大学 講師）
	「単層カーボンナノチューブ自己増殖型反応による水素製造触媒の開発」 金子 克美（信州大学 特別特任教授）
水素貯蔵・輸送媒体に関する技術	「高効率水素貯蔵・輸送システムの構築を目指した新規高温水素親和性セラミックス膜の合成開発研究」 岩本 雄二（名古屋工業大学 教授）
	「高密度水素安定貯蔵を目的とした水素単分子パッキング細孔空間を持つ、配位高分子錯体の設計構築と応用」 小曾根 崇（理化学研究所 特別研究員）
CO ₂ 固定化技術	「協同効果を利用する高活性二酸化炭素固定化触媒の創製」 依馬 正（岡山大学 准教授）
	「遷移金属錯体触媒を用いたイオン液体中での二酸化炭素の変換反応」 長尾 宏隆（上智大学 教授）



2009年度及び2010年度助成対象者とENEOS水素基金関係者